

古代出雲の記録

8世紀初頭の朝廷は、支配下にある土地についてさらに詳しく知るため、一連の地方調査（風土記）を依頼した。「出雲國風土記」は、出雲国（現在の島根県の一部）の地理と文化を調査したものである。733年に編纂されたこの書物は、日本最古の文書記録のひとつである。また、現在までほぼ完全な形で残っている数少ない風土記の一つでもある。近くには、何巻もある本文の写しが展示されている。この文書には、古代の仁多郡(現在の奥出雲)に鉄があったことが記されており、この地域で何世紀にもわたって製鉄が行われてきたことがわかる。

調査の関連項目には「上記の郡（布施、三所、三沢、横田）から産出される鉄は、耐久性があり、さまざまなものを鍛造するのに適している。」とある。